



湘北短期大学のSDGsについて ご紹介するニュースレターです

～発行者からのお知らせ～

23年度から、Webサイト湘北SDGsを開設し、授業や大学全体の取り組みを紹介しています。

ニュースレターでは、Webサイトに掲載した記事の中から、学科の授業や部門ごとの活動を、カテゴリー別にまとめて紹介していきます。

今後とも湘北短期大学は地域に根ざした教育機関として「Think Globally, Act Locally」を合言葉に、社会課題の解決にむけて持続可能な未来の創り手を社会に送り出していきたいと思います。

湘北SDGs

Think Globally, Act Locally.

2024年度 第7号
(通算第22号)
今回の発行人 築瀬千詠
yanase@shohoku.ac.jp

学校法人ソニー学園 湘北短期大学
生活プロデュース学科・リベラルアーツセンター

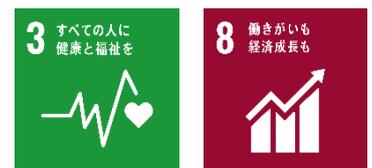
〒243-8501 厚木市温水 428 TEL:046-247-3131 FAX:046-247-3667

【授業紹介】「SNSとダイバーシティ」渡邊 佑 氏による特別授業 ～障がい者活躍推進の事例～を実施（2024年10月）

リベラルアーツ科目「SNSとダイバーシティ」（1年生・2年生選択科目）では「障がい者活躍推進の事例」と題し、プロフェッショナルコーチであり、障がい者向けキャリアスクール D-Biz College を設立した渡邊 佑 氏に特別授業を行っていただきました。

障がい者雇用は多くの場合「就労」がゴールとなっており、企業側も従業員側も「働きがい」や「生きがい」への視点が欠けている現状に疑問を持ち、障がい当事者のキャリアアップやキャリアの充実・起業等のきっかけ作りを行うため起業した渡邊氏のお話、受講生たちは障がいに対し画一的なイメージを持っていたことに気付かされたようでした。「障がい」という線引きではなく、個人の特性に目を向ける必要性は、卒業後にキャリアを構築する受講生たち本人の立場にもつながる話であり、他人にも自分にも可能性を制限しないことの大切さを感じたようです。

(リベラルアーツ科目 非常勤講師 二宮 朋子)



D-Biz Collegeとは？

D-BizCollege の特徴（強み）

- 1 “活躍当事者”（ロールモデル）によるサービス提供
- 2 “心理的資本”を高めることを中心にしたサービス

障がい者雇用を支援するサービス

“就労のその先”を支援するサービスが皆無

就労後

就労前

一般就労

福祉的就労

ほぼ存在しない

就労定着支援

就労移行支援

自立訓練（生活・機能訓練）

就労継続支援（A型・B型）

【授業紹介】「SNSとダイバーシティ」工藤 由佳 氏による特別授～女性活躍推進の実態～を実施

(2024年10月)

リベラルアーツ科目「SNSとダイバーシティ」（1年生・2年生選択科目）では「女性活躍の実態」と題し、起業家・大学院生・2児の母と3つの立場で活躍する工藤由佳氏に特別授業を行っていただきました。

大学卒業後、働く女性のロールモデルが乏しい中で、大手コンビニチェーングループ会社の代表取締役副社長まで昇進。その後研究者として渡仏し、2024年に起業された工藤氏の体験を交えながら、男女雇用機会均等法や育児・介護休業法、女性活躍推進法など法令の変遷に対する現状を豊富なデータとともにお話いただきました。

日本国内においては上昇傾向にある女性管理職比率も国際的には依然水準が低く、根底には長時間労働が常態化した企業体質や社会にはびこる性別役割分担意識があることについて、受講生たちは驚きをもって受け止めていました。

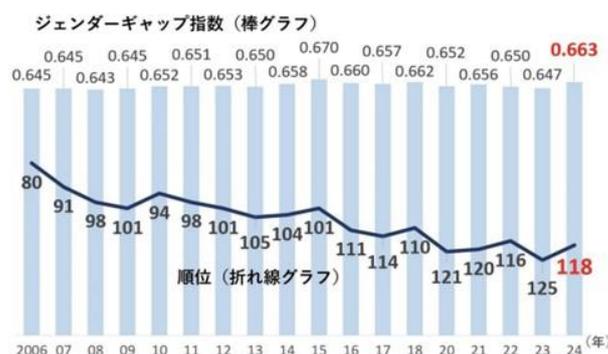
講義後は「意思決定の場に女性がいないことで、災害備蓄としての生理用品が十分に用意されないことにつながっていて驚いた」「男性育休の取得が当たり前になってほしいと思った」「私たち一人ひとりが、性別にとらわれない考え方を持つことで、未来の社会はもっと良いものになっていくはずだと強く思った」といった感想が寄せられました。

(リベラルアーツ科目 非常勤講師 二宮 朋子)

起業・研究・子育て



ジェンダーギャップ指数



日本のジェンダーギャップ指数と順位推移。2018年までは各年版が公表されていたが、2019年12月に「2020年版」、2021年3月に「2021年版」が出されたため、年の数字は連続していない(グラフは編集部作成)

「ジェンダー公正の達成まで134年かかる」

WEFは、「現在のペースでは、完全なジェンダー公正を達成するまであと134年かかる。これは、5世代分に相当する」と指摘。

一方、2024年は、米大統領選をはじめ各国で国政選挙がおこなわれる「選挙イヤー」であることから、「女性の政治的的代表権とジェンダーギャップが全般的に改善される可能性がある」と期待を示している。